

<p>11月30日(水)まで</p> <p>会津の夜の観光はライトアップでタイムスリップ!</p> <p>ハイカラさん夜間運行は期間中の金・土・祝前日</p> 	<p>期間中、会津若松市内の鶴ヶ城や酒蔵など歴史的な建物がライトアップされます。夜の城下町の散策をお楽しみ下さい。金・土・祝前日にはまちなか周遊バス「ハイカラさん」の夜間運行もいたします。幻想的に照らされた夜のまちなかを、ハイカラさんに乗ってご覧ください。</p> <p>ハイカラさん夜間運行時間/ 会津若松駅前18:00発~20:30発 ※30分おきに運行 料金/ハイカラさん運賃:大人200円、子ども100円 ※1日フリー乗車券(大人500円、子ども250円)も使えます ☎会津若松市観光課 ☎0242-39-1251 ※ハイカラさん夜間運行については会津バス若松営業所 ☎0242-22-5555</p>
<p>10月中旬~11月中旬 16:30~21:00</p> <p>ライトアップされた鶴ヶ城の幻想的な美しさをお楽しみください!</p>	<p>紅葉時期にあわせ、鶴ヶ城公園内をライトアップしています。秋の夜長、光に照らされた鶴ヶ城公園を散歩してみたいいかがですか。</p>  <p>交通/JR磐越西線会津若松駅から ハイカラさん・あかべえ「鶴ヶ城北口」下車徒歩5分 磐越自動車道会津若松ICから車で約15分 ☎会津若松市観光課 ☎0242-39-1251</p>
<p>9月7日(水)・11月7日(月) 10:00~15:00</p> <p>千少庵をしのぶ月釜で、会津の茶道文化をご堪能ください!</p> <p>場所/麟閣</p>	<p>麟閣ゆかりの千少庵の月命日のあたる7日に、会津茶道会の当番流派によるお茶会を催しています。</p> <p>会津茶道文化の発展を図ると共に気軽に日本文化に触れていただく機会です。</p> <p>料金(入園料込)/大人1,000円、小人800円 交通/JR磐越西線会津若松駅からハイカラさん・あかべえ「鶴ヶ城北口」下車徒歩5分 ☎会津若松市観光課 ☎0242-27-4005</p>
<p>9月9日(金)~10月25日(火)</p> <p>鶴ヶ城企画展~生誕四百年記念会津松平家の祖「保科正之」</p> <p>場所/鶴ヶ城天守閣</p>	<p>今年生誕400年を迎えた会津松平家の祖「保科正之公」の特別企画展。二代將軍徳川秀忠の実子で、四代將軍の後見役として幕藩体制の基礎固めに貢献した保科正之をわかりやすく紹介します。</p> <p>料金/大人400円、小中学生150円 交通/JR磐越西線会津若松駅からハイカラさん・あかべえ「鶴ヶ城北口」下車徒歩5分 ☎会津若松市観光課 ☎0242-27-4005</p>
<p>10月2日(日)8日(土)・9日(日)・10日(祝) 10:00~15:00</p> <p>会津藩 鶴ヶ城の市</p> <p>場所/鶴ヶ城公園</p>	<p>蒲生氏郷公が築いた町民文化!楽しい市で思い出つくり!鶴ヶ城周辺に会津の漆器や菓子が大集合。会津の特産品や昔話、絵付け体験なども楽しめるよ。</p> <p>交通/JR磐越西線会津若松駅からハイカラさん・あかべえ「鶴ヶ城北口」下車徒歩5分 ☎会津若松市観光課 ☎0242-27-4005</p>

2013年NHK大河ドラマは、会津若松出身の新島八重が主人公「八重の桜」に決定!



写真/同志社大学提供

新島八重は、会津藩の砲術師範であった山本権八の娘として誕生。砲術に長け、戊辰戦争時には自らスペンサー銃を持って鶴ヶ城に籠もったことから、「幕末のジャンヌ・ダルク」と称されました。その後兄・覺馬を頼り京都へ向かった八重は、同志社を創設した新島襄と出会い結婚。「ならぬことはならぬもの」という会津の“什の誓い”を貫く一方、アメリカで西洋文化に触れた夫を「ジョー」と呼び捨てにする生き様を、夫は「ハンサムウーマン」と称しました。晩年は日清・日露戦争に篤志看護婦として参加し、87年の生涯を颯爽と生き抜きました。

出演:綾瀬はるか(新島八重)



新島八重生誕の地
鶴ヶ城にほど近い場所にあり、石碑が建てられています。

鶴ヶ城
戊辰戦争の際もついに落ちなかった名城。今年の春、当時と同じ赤瓦に復元され、注目を集めています。



が長く、日本人とは何かということにとても興味がありました。それで日本独特の文化や宗教について調べていた中で、日本で初めて独自の暦を作った渋川春海という人物に出会い、彼の人生の面白さに惚れ込み、16・17歳の頃からいつか小説にしたいと思っていました。それから16年かけて、やっと作品にすることができました。

作品を書くに当たっては、当時の地図と現在の地図を比較検討しながら、当時はこんな風に観測を行っていたのだらうなどと想像しながら進めていきました。福島は現存する算額(※)の数が日本一ですが、実際にいくつも見たりもしました。会津藩主の保科正之は改暦に熱心で、春海に白羽の矢を立てたのですが、彼は藩士ではなく囲碁会の一員で交友関係が広く、会津・京都・江戸を結んだ人物でもありません。そんな彼の様々な人たちのつながりも、作品の中で重要なポイントになっ

ています。先日撮影現場にも足を運びましたが、かなりクオリティの高い映像になっていきます。ぜひ、ワンシーンたりとも見逃さないで見て欲しいと思います。

※算額/和算家が自分で作った数学の問題や解法を書いて神社に奉納した絵馬

最後に、福島県民の皆さんへメッセージをお願いします。

福島県は広いので、大きな被害のあった地域とそうでない地域では、見えている現実が全く違います。控え目な福島の人たちは苦手かもしれませんが、お互いに自己アピールをして、理解を求めながら助け合っていくことが重要になるのではないのでしょうか。いろいろな意味で有名になった福島ですが、この災いを福とするために、



みんなでも何か考えていくべきだと思います。今回の震災で分断されてしまったものを、いつか必ず一つにしなければならぬ——と強く感じています。それができるのは活字の力やメッセージによるものが大きいので、私も自分の状況を素直に発信していくことで、福島の現状を広く伝えて行きたいと思っています。時間はかかるかもしれませんが、みんなで取り戻していきましょう!

「天地明察」に登場する福島県ゆかりの人物

- 保科正之/徳川三代將軍・家光の異母弟で、会津松平家の初代藩主。春海に改暦を命じた。
- 島田貞継/武士・和算家。会津藩で勘定奉行・普請奉行として仕え、磐梯山の測量などを行った。
- 田中正玄/会津藩家老。保科正之に代わり藩政を仕切り、信頼も厚かった。
- 磯村吉徳/和算学者。二本松藩に仕え、「二合田(にごうだ)用水」を設計測量して、安達太良山より豊富な水を供給した。
- 安藤有益/和算家・暦学者。保科正之に仕え、島田貞継からも数学や暦学を学んだ。
- 山鹿素行/儒学者・軍学者。現在の会津若松市に生まれ、後に赤穂藩士の教育を行った。



保科正之
写真所蔵/土津神社
協力/会津若松市

バラバラになった現実を取り戻すため これからの福島を、一緒に考えていきましよう



INTERVIEW

うぶ かた とう 沖方 丁

「マルドゥック・スクランブル」 「天地明察」などの作品で知られる、福島県在住の作者・沖方丁（うぶかた・とう）さん。震災後しばらくの間福島を離れていましたが、そこで感じた思いや、これからの福島が進むべき道などをうかがいました。

福島の好きな場所などを教えてください。

福島に住んで9年目になります。現在は福島と東京の2カ所を拠点に活動していますが、福島は執筆の場所と決めています。静かで穏やかで創作に没頭できる環境で、東京にも近いのがいいですね。仕事場の窓から磐梯山や吾妻小富士が見える様に作ったのですが、その風景はまるで額縁に入っている様で、見ているとあっとい間時間間が過ぎてしまいます。雪景色・山景

色は、いい酒の肴になりますよ。

これまで飯坂・土湯・高湯など、近場の温泉には何度か行きました。自宅から車ですぐの場所にありますから、本当に恵まれますよね。猪苗代湖や五色沼、浄土平、スパリゾートハワイアンズにも行きました。今は執筆が忙しくなかなか出かけることができませんが、一段落ついたらまた温泉に行きたいなあ。

震災後、しばらく福島を離れていらっしやいましたが、その時に感じた事はありますか。

とにかく生活の基盤を立て直すために必死でしたが、福島を離れてみて、改めていいなあと思うことがたくさんありました。でもその福島が苦しんでいる姿に、やるせなく感じることも多かったです。一時期北海道にいた



映画「天地明察」2012年秋公開予定

第31回吉川英治文学新人賞、2010年本屋大賞に選ばれた「天地明察」。江戸時代前期の囲碁棋士で天文暦学者の渋川春海(安井算哲)が、800年ぶりの改暦を実現するまでの挫折と苦闘の20数年を描いた時代小説で、主人公は会津藩邸に住み、会津藩主保科正之より改暦を命じられるなど、福島県とも縁の深いものとなっています。

監督：滝田洋二郎 音楽：久石譲
出演：岡田准一(渋川春海) 宮崎あおい(春海の妻・えん) ほか

時には、福島から来たと言うと懐かしがる人もいて、故郷と呼べる場所のない私には、出身の地域に愛着を持って生活している人々がうらやましかったです。

久々に戻った福島は夏の香りがして、やはり落ち着く場所だと思えました。ここにいれば時間の流れが元に戻り、本来のリズムを取り戻せる気がします。少し離れただけの私がそう思うのですから、原発の影響で故郷に戻りたくても戻れない人たちが、いつか必ず戻りたいという気持ちがよく分かりました。

来年映画が公開される「天地明察」には、福島県縁の人物も多く登場しますが、この作品を書いたきっかけを教えてください。

海外暮らしで日本を離れていた時期

COLUMN

独自の発展を遂げた 会津暦



冠婚葬祭や農作業のめやす、行っはいけない方角など、人々の生活に欠かすことの出来ない暦。日本では江戸時代初めまで中国の暦を800年以上使用していましたが、1685年に渋川春海が作った日本人初の暦「貞享暦」に改暦されました。それまで全国各地では独自の暦づくりが盛んで、「会津暦」は、頒布の広かったものの一つに数えられていた。

会津暦は東北地方では最も古いとされる暦で、諏訪神社が製造元となり、改暦以前は独自に編暦を行っていました。制作を手伝っていたのは日新館の主席メンバーで、鶴ヶ城近くの日新館跡地には、暦づくりに欠かせない天文台が復元されています。会津若松市立図書館や会津藩校日新館などで、現存する会津暦を見ることが出来ます。



会津藩校日新館
〔会津若松市〕
TEL 0242752525

藩士教育に力を入れていた会津藩では、10歳になると子弟を日新館に入学させ、様々な事を学ばせました。戊辰戦争により消失しましたが、現在は当時の建物を再現した施設が整備され、坐禅や弓道、茶道など、様々な体験ができます。